

「ふくだ としおさん
ヒアリングより」

絵本作家
ふくだ としお様にお話を伺いました。

「うしろにいるのだあれ」など多数の絵本でご活躍中のふくだ としおさんは昨年12月に、お子様が誕生されたばかり。お父さんの子育てについてインタビューしました。

「パパと子の浴育」

Q1 「育児」について生まれる前に考えていた事と、実践してみたときの違いは？

生まれる前は楽観的だったものの、実際は生活のリズムの変化にとまどいもありました。特に僕の場合は仕事場と住まいが一緒なので仕事が二の次になり、イライラすることも。思った以上に大変だと、とまどいました。子どもといっぱい遊んであげたいけれど、それには気持ちのゆとりがないとダメ。今では自分の限られた時間の中で、ゆとりを作る事を考えるようになりました。子育ての責任は母親の方がどうしても重くなるけれど、お風呂に関しては僕が毎日入れています。

Q2 最近、親子のコミュニケーションで気がつく事や絵本の役割についてお聞かせください。

子どもは常に100%で接してくれるので、自分も同じように接してあげたい。絵本は片手間では読めないで、100%向き合う時間になります。絵本を通して子どもとの一体感を伝える、親子のコミュニケーションの道具としてあるといいなと思います。

子どもができる前は、「子ども」に向けて描いていましたが、今では「親」にとっても気持ちが豊かになるものとして描けたらいいと思うようになりました。一緒に絵本を読む事で、子どもと充実した時間を過ごせるようになってほしいと考えています。

Q3 かわいらしい、お風呂グッズを既に作っていらっしゃいますが、今後、お風呂をコミュニケーションの場にするにはどんな物があったら良いと思いますか？

お風呂もまた、子どもと100%で向き合える時間だと思います。仕事も忘れ、リラックスできて自然と会話や歌が生まれる。まだまだ小さいのでグッズを使う事はありませんが、いずれはお風呂場を楽しく過ごせるように子どものイマジネーションを助けるようなグッズで遊んであげたい。例えばバスタブを沼や海に見立てて、キリンやゾウがいたり、お父さんが即席で冒険ストーリーを作りながら、どうぶつを動かして、その子にぴったりのお話をしあげられたら楽しそうですね。

お風呂の壁に絵が描けたりと、お風呂から上がってもまたすぐに「お風呂に入りたい！」と思うような楽しい道具があればいいなと思います。